

2015年4月8日

富士ゼロックス株式会社

「四次元ポケット PROJECT」 広告シリーズ第三弾スタート！

時間や場所に依存しないコミュニケーションを実現するITソリューションを駆使し、
ドラえもののひみつ道具「室内旅行機」づくりに挑戦



©Fujiko-Pro

富士フィルムグループの富士ゼロックス株式会社（本社：東京都港区、社長：山本 忠人）は、日本の未来を創る原動力とも言える中堅・中小企業が持つ“技術”や“ノウハウ”を組み合わせ、国民的人気まんが「ドラえもん」の「ひみつ道具」づくりにチャレンジする「[四次元ポケット PROJECT](#)」第三弾の広告展開を、9日からスタートします。

「四次元ポケット PROJECT」広告シリーズ第三弾は、第一弾の「セルフ将棋」、第二弾の「望遠メガフォン」に続き、「ひみつ道具」である「室内旅行機」*1づくりへの挑戦を富士ゼロックスのITソリューションで支援したことを伝えるものです。

当社は、実在する複数の中堅・中小企業*2が本プロジェクトにおいてもものづくりを行う際のコミュニケーションを支援するため、筐体の設計・製造に関わるドキュメントの情報共有や修正事項の確認を、クラウド上でスピーディーかつセキュアな環境で行える基盤を構築しました。

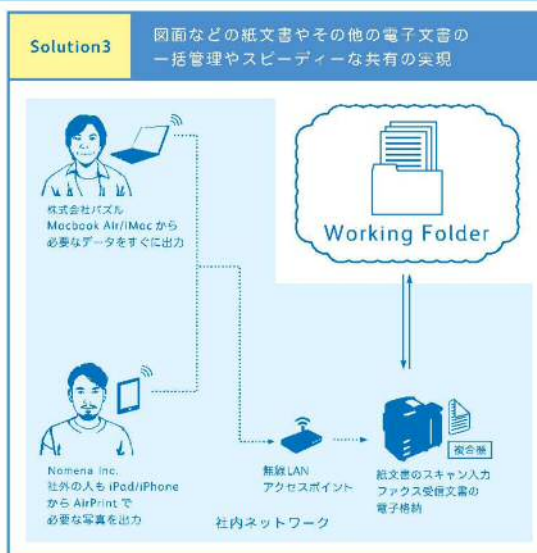
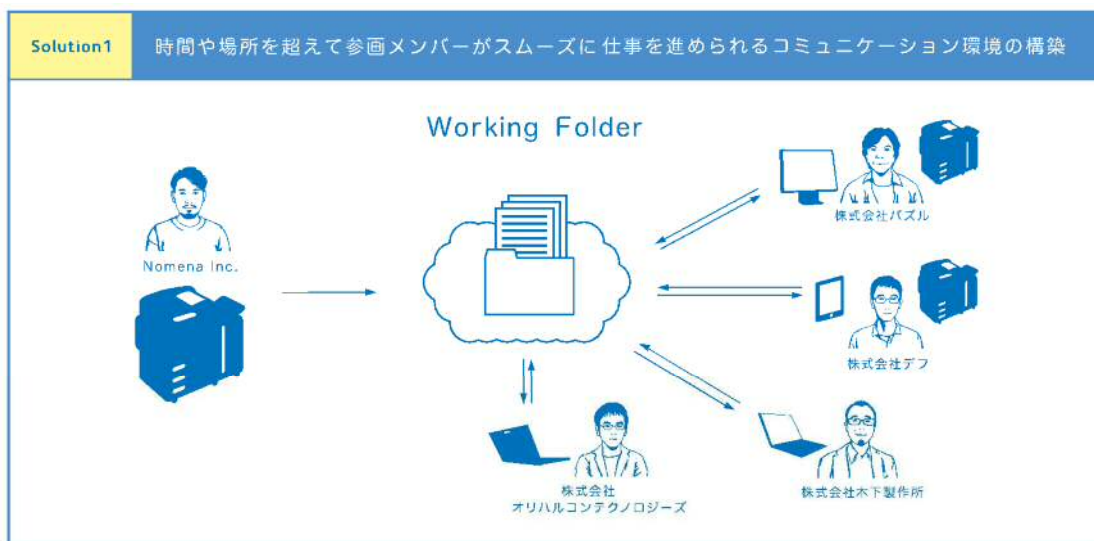
具体的には、ドキュメント共有を支援するクラウドサービス「Working Folder」*3を中心に据えたITソリューションにより、プロジェクトに関係する各社で共有する仕様書・図面などを使い慣れた複合機で簡単に電子化、「Working Folder」にアップロードできる環境を提供しています。

さらに今回はモバイル環境でのドキュメントハンドリングを支援するアプリケーションソフトウェア「DocuWorks Mobile」*4を活用、外出先でタブレット端末から「Working Folder」内に格納されている仕様書・図面などを確認したり、端末にダウンロードし編集後アップロードできるなど、時間や場所に依存せず効率的な業務環境を構築することで「室内旅行機」づくりへの挑戦を支援しました。

富士ゼロックスは「四次元ポケット PROJECT」を通し、企業が連携してノウハウや技術を組み合わせ、新たな価値を生み出すためのコミュニケーションの基盤となるITソリューションを、日本の成長を牽引する大きな原動力を持つ中堅・中小企業のお客様へ提供していることを伝えます。



「室内旅行機」



- *1 室内旅行機：「ドラえもん」の「ひみつ道具」のひとつ。スイッチを入れると球体部分から部屋一杯に広がる映像が投影され、映写された場所にほんといろんな体験ができ、部屋にいながら旅行気分が楽しめる機械
- *2 実在する複数の中堅・中小企業：「室内旅行機」づくりに参画した会社は下記の通りです。

会社名	所在地	担当	会社名	所在地	担当
Nomena Inc.	東京都渋谷区	試作検証・設計・3Dモデリング	株式会社 オリハルコンテクノロジーズ	東京都中野区	プロダクション投影システム設計
株式会社 デフ	東京都多摩市	FRP造形	株式会社 バズル	東京都港区	360度映像制作
株式会社 木下製作所	京都府京都市	駆動機構製造			

- *3 Working Folder：ドキュメント共有を支援するクラウドサービス「Working Folder」は、インターネット環境さえあれば電子化された文書にどこからでも安全にアクセスできるサービスです。
<http://www.fujixerox.co.jp/solution/workingfolder/>
- *4 DocuWorks Mobile：モバイル環境でのドキュメントハンドリングを支援するアプリケーションソフトウェアで、文書の閲覧・編集や、クラウドサービス・文書管理サーバーとの連携、複合機へのプリントといった、モバイルワークでタブレット端末に求められる機能がさらに便利に、使いやすくなります。

富士ゼロックスは、「映画ドラえもん のび太の宇宙英雄記 (スペースヒーローズ)」を応援しています。大ヒット上映中！

© Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei, and ADK 2015

